

家庭教育の手引き



みんなではぐくむ 二戸っ子



二戸市教育振興運動推進協議会

も

<

じ

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
小学校に入るまでに、こんな子どもに・・・・・・・・	2
小学校1・2年生の学習・・・・・・・・	3
小学校3・4年生の学習・・・・・・・・	5
小学校5・6年生の学習・・・・・・・・	7
小学生の生活習慣・・・・・・・・	9
小学生の読書・・・・・・・・	11
こんなときどうしたらいいの？Q&A 小学生編・・・・・・・・	13
中学校1・2・3年生の学習・・・・・・・・	15
中学生の生活習慣・・・・・・・・	19
中学生の読書・・・・・・・・	21
こんなときどうしたらいいの？Q&A 中学生編・・・・・・・・	23
おすすめの図書リスト・・・・・・・・	25



はじめに

学力を伸ばすためには、授業への取り組みはもちろんのことですが、家庭での過ごし方も大切です。家庭での過ごし方のポイントは、次の通りです。

1 「早寝・早起き・朝ごはん」で生活リズムを整えましょう

脳の働きを高め、気持ちのよい1日を過ごすためには、早寝・早起きの習慣をつけて、バランスのとれた朝食をとることが重要です。

2 家庭学習の習慣を身につけましょう

家庭では、まず日々の宿題をきちんとすませることから始めましょう。そのうえで、予習や復習に取り組み、苦手なところを繰り返し学習することや、興味のあることを進んで調べるといった学習にも広げていきたいものです。

そこで、家庭での学習習慣をつけるために、次の3つのことが考えられます。

(1) 勉強しやすい環境をつくる

子どもが勉強する部屋のテレビや音楽を消して、静かな環境をつくりましょう。また、子どもとテレビやゲームについての約束をつくり、きちんと守るように声がけすることも大切です。リビングでの学習が、効果的であるとも言われています。

(2) 学校での様子に関心をもつ

子どもが今、学校でがんばっていることや授業で学習していることなどに関心を持ちましょう。学校からのお便りや連絡帳を通して、学校の取り組みも見えてくると思います。

(3) 勉強している様子を見守る

子どもが計画を立てて、自分で学習を進めることができるように見守りましょう。

「手はかけないが、目はかける」ことを心がけ、自分でできるように見守りましょう。

3 家族とのかかわりを大切にしましょう

家庭で、家族で本を読んだり、地域の活動に一緒に参加したりすることで、子どもの成長に気づくことがあります。

また学校では、キャリア教育を計画的に進めています。主な内容は、身の回りの仕事や働くことの意義、自分の将来の生き方などについての学習です。そこで家庭においても、将来何になりたいか、どんな大人になりたいか、そのためにはどのような努力が必要かなどについて、家族の団らんで語り合うことが大切です。

家族とのかかわりは、子どもたちの心の栄養になります。

小学校に入るまでに、こんな子どもに

★この頃の育ちは★

身の回りのことが自分自身でできるようになり、よいこと、悪いことなどを自分で考えて行動する力が育ってきます。また、「遊び」を通して、たくさんのことに興味・関心をもって学んでいくのもこの時期です。

★かかわり方のポイント★

- ◇子どもの成長には個人差があります。焦らず、気負わず。
- ◇よいところを進んでほめましょう。自信と自分を大切にできる心が育ちます。
- ◇「繰り返し」が基本です。毎日取り組ませ、できることを増やしましょう。

★こんな子どもに★

自分から進んであいさつや返事をする子に

あいさつや返事ができることは、とても大事なことです。きちんと相手の目を見て「おはようございます」「はい」と言えるように、家庭でも習慣化を図りましょう。

たくさんの本に親しむ子に

「本好き」であることは、子どもにとって大きな財産になります。「知識」を得ることはもちろんのこと、「好奇心」や「集中力」を養うためにも、絵本の読み聞かせをしましょう。

みんなと力を合わせて遊ぶ子に

集団遊びを通して、子どもは「ほかの人」を知り、ルールを守ることや我慢することの大切さを学びます。思いやりの心、責任感も育まれます。集団で遊ぶ場を積極的に与えましょう。

好き嫌いしないで食べようとする子に

健康で丈夫な体をつくるためだけでなく、何でも食べよう、食べてみようとする態度は、誰とでも仲良くしようとする態度にもつながると言われています。「一口だけでも食べてみよう」と働きかけましょう。



「学習習慣」を身につけよう

この頃の育ちは

初めて学校に通い、一定の時間いすに座って学習に取り組む生活が始まります。また、様々なことに興味・関心をもち、自分でやっていこうとする時期です。この頃の子どもたちにとって、多くの体験は望ましい発達のためにとても大切です。手助けをしてあげながらも過干渉にならないようにしましょう。そして、できたときは、意欲と自信につながるようにほめてあげましょう。

「早寝・早起き・朝ごはん」をはじめ、家の手伝い、学習の準備といった望ましい生活習慣は、しっかりした学習習慣を身につける基礎となります。

こんな学習をしています

国語・算数・生活・音楽・図画工作・体育・特別の教科道徳・特別活動

1
年生

- ひらがな・カタカナを読んだり書いたりする。
- 「は、へ、を」を使い分けて文章を書く。
- 80字程度の漢字を読んだり書いたりする。
- 数について数えたり表したりする。
- 簡単な二けたのたし算・ひき算をする。
- 時計の時刻を読む。
- 鉛筆を正しく持って、正しい姿勢で字を書く。
- 学校探検をする。
- 花を育てる。

2
年生

- 160字程度の漢字を読んだり書いたりする。
- 順序よく話をする。
- 定規を使って筆算をきれいに書きながら計算する。
- 簡単な三けたのたし算やひき算を暗算や筆算でする。
- かけ算九九をすらすら言う。
- 決められた長さの直線を正しく引く。
- 町探検をする。
- 野菜や生き物を育てる。



家庭で学習するときは



- 学習前に保護者の目の届くところで、身の回りの整理整頓をさせてからはじめさせましょう。
- 家庭学習をする時刻、時間をしっかり決めて取り組ませましょう。
- 家庭学習が終わったら、まる付けをし、間違えたところは一緒に直しましょう。
- テレビを消して、集中して学習させましょう。
- 正しい姿勢で、字をていねいに書かせましょう。
- 学校からの宿題やプリントは一緒に確かめましょう。
- 正しい鉛筆の持ち方を身につけさせましょう。

こんな学習方法で



国語

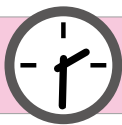


- 教科書を毎日音読させましょう。声に出して読むことはとても効果的な学習方法です。
- 句読点に気をつけて、大きく口を開けて大きな声で読ませましょう。
- ひらがなやカタカナは、書き順に気をつけてマスいっぱいにていねいに正しく書かせましょう。
- 漢字ドリルや教科書などを使って、新しい漢字や習った漢字をくり返し、ていねいに練習させましょう。
- 日記を書くことで表現したり伝えたりする文づくりの楽しさを味わせましょう。

算数



- 学校で学習したことを復習させましょう。
- 定規などの学習用具を正しく使って学習に取り組ませましょう。
- 教科書やドリルの計算問題を復習させましょう。
- 計算の手順が正しく身につくように声に出して練習させましょう。
- かけ算九九が正しく覚えられるように声に出して練習させましょう。
- 文章問題は、声に出して問題を読んだり、絵や図にかいたりして考えさせましょう。



「自ら学習に取り組む習慣」を身につけよう

この頃の育ちは

中学年になると知的な発達も進み、物事の関係性に気づき始めるため、興味の幅も広がります。また、家族に認められたり、ほめられたりすることで学ぶ意欲の向上にもつながります。この時期にきちんとした家庭学習の習慣が身につくように励ましていきましょう。

こんな学習をしています

国語・社会・算数・理科・音楽・図画工作・体育・外国語活動・特別の教科道徳・総合的な学習の時間・特別活動

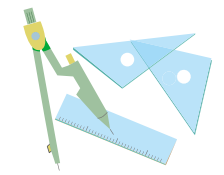


- 200 字程度の漢字を読んだり書いたりする。
- ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り使う。
- ローマ字を読んだり書いたりする。
- 国語辞典を使う。
- わり算をする。
- 小数のたし算・ひき算をする。
- コンパスを使って簡単な図形をかく。
- はかりを使って重さを読む。
- そろばんを使う。
- 二戸市のことについて大まかに理解する。
- 乾電池や磁石、鏡を使った実験をする。
- 英語を聞いたり話したりする活動に慣れ親しむ。



- 都道府県名を含む 200 字程度の漢字を読んだり書いたりする。
- 漢和辞典を使う。
- ローマ字の読み書きに慣れる。
- わり算の筆算をする。
- 同分母分数のたし算・ひき算をする。
- 小数×整数、小数÷整数の計算をする。
- コンパスや分度器、三角定規を組み合わせるいろいろな四角形をかく。
- 47 都道府県の名前と場所を理解する。
- 金属や水、空気の性質及び電気の働きについて理解する。
- 英語を聞いたり話したりする活動に慣れ親しむ。

家庭で学習するときは



- 学習前に身の回りの整理整頓をさせましょう。
- 家庭学習をする時刻、時間をしっかり決めて取り組ませましょう。
- テレビを消して、集中して学習させましょう。
- 正しい姿勢で、字をていねいに書かせましょう。
- 家庭学習が終わったら、すぐに次の日の準備をさせましょう。
- 学校からのプリントを出させて、宿題を自分で確かめさせましょう。

こんな学習方法で



- 教科書を毎日音読させましょう。
- 句読点に気をつけて、はっきりした発音で読ませましょう。
- 漢字ドリルや教科書などを使って、新しい漢字や習った漢字をくり返し、ていねいに練習させましょう。
- 書き順、「とめ」「おれ」「はね」「はらい」に気をつけて書かせましょう。
- 国語辞典を使って語句の意味を調べさせましょう。
- 一日を振り返って、したことや思ったことを日記に書かせましょう。



- 学校で学習したことを復習させましょう。
- 教科書やドリルの計算問題を復習させましょう。
- 筆算は位をそろえ、手順を確かめながら計算させましょう。
- 定規や分度器、コンパスなどを使って図形をかかせましょう。
- 文章問題は、声に出して問題を読んだり、線を引いたりして考えさせましょう。
- 間違えた問題は、必ずやり直す習慣をつけさせましょう。



「自分で学習計画を立て、取り組む力」をつけよう

この頃の育ちは

行動範囲が広くなり、自立心が大きく育ちます。周囲の大人から自分の存在を認めてほしい反面、親に頼ったり甘えたりしたい気持ちが混在する時期でもあります。

規則正しい生活リズムを身につけさせ、学習環境を整えて、子どもの学習に取り組む姿勢を見守りましょう。また、子どもが学習への意欲や興味、関心を持続し、自分で取り組む力をつけられるよう励ましていきましょう。

こんな学習をしています

国語・社会・算数・理科・音楽・図画工作・家庭・体育・外国語・特別な教科道徳・総合的な学習の時間・特別活動

5
年生

- 4年生までの漢字と5年生の漢字 193 字を読んだり書いたり使ったりする。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを持つ。
- 10 倍、100 倍、1000 倍、1/10、1/100 などの大きさの数を作る。
- 小数のかけ算・わり算をする。
- 異分母分数のたし算・ひき算をする。
- 三角形、平行四辺形、ひし形、台形、円の面積を求める。
- 割合・百分率を使った問題を解く。
- わが国の国土・産業（工業・農水産業・情報）について学習する。
- 天気の変化・植物の育ち方・動物の誕生・物の溶け方・電流などについて学習する。
- 簡単な英語を使い自己紹介したり英語の語句や基本的な表現を書き写したりする。

6
年生

- 5年生までの漢字と6年生の漢字 191 字を読んだり書いたり使ったりする。
- 筆者が訴えたいことを読み取り、自分はどのように考えるかをまとめる。
- 読み取りやすい古文や漢文を音読して、言葉の響きやリズムに親しむ。
- 分数のかけ算・わり算をする。
- 円の面積・角柱・円柱の体積を求める。
- 比例・反比例の問題を解く。
- 日本の歴史・政治・世界とのつながりを学習する。
- 水溶液の性質・てこのはたらき・電流のはたらき・月と太陽について学習する。
- 簡単な英語を使い自己紹介したり英語の語句や基本的な表現を書き写したりする。



家庭で学習するときは



- 学習前に身の回りの整理整頓をさせ、学習しやすい環境をつくらせましょう。
- 学校からのプリントを出させて、宿題を自分で確かめさせましょう。
- 家庭学習をする時刻、時間をしっかり決めて取り組ませましょう。
- テレビを消して、集中して学習させましょう。
- 正しい姿勢で、字をていねいに書かせましょう。
- 家庭学習が終わったら、すぐに次の日の準備をさせましょう。



こんな学習方法で

国語



- 教科書を毎日音読（朗読）させましょう。
- 句読点や速さに注意して読ませましょう。
- 漢字ドリルや教科書などを使って、新しい漢字や習った漢字をくり返し、正しくていねいに練習させましょう。
- 国語だけでなく、他の教科に出てくる漢字（それぞれの教科の用語・都道府県名等）の練習もさせましょう。
- 国語辞典を使って語句の意味を調べさせましょう。
- 自分の気持ちや考えを整理して、日記を書かせましょう。
- 新聞を読み、自分の意見や考えを文章に書かせましょう。

算数



- 今日学習したことを、もう一度一人勉強ノートに整理させましょう。
- 計算ドリルや教科書などを使って、計算問題を復習させましょう。
- 新しい記号の書き方と読み方の練習をさせましょう。
- 定規や分度器、コンパスなどを使って図形をかかせましょう。
- 計算問題は時間を計ってたくさん解かせましょう。
- 文章問題は問題をよく読み、簡単な図などを使って考えさせましょう。
- 解いた問題は丸付けをさせ、間違えたときは、必ずやり直す習慣をつけさせましょう。



学習習慣定着のために 「生活習慣」をしっかり身につけさせよう

決まった時刻に寝る、起きる、食事をする、勉強をする、テレビやゲームの時間を決めるなど、生活のリズムをつくることは体調を整え、学習への意欲づくりや学習時間の確保につながります。それぞれの家庭に合ったルールを決め、毎日持続できるよう励ましていきましょう。

生活リズムづくりの基本は 早寝・早起き・朝ごはん

早寝、早起き、適度な睡眠を

成長期の子どもたちにとって、睡眠は大切な生活の一部です。でも、

！睡眠不足になると・・・

- 学習に集中できない。
- 疲れやすい。
- 忘れ物が多くなる。
- イライラしたり、情緒不安になったりする。
- 運動不足や生活習慣病になることもある。



普段できることもできなくなったりすることがあります。

！そこで

- 起きる時刻、寝る時刻、夕食の時間など、朝と帰宅後の生活プログラムを決めましょう。
[小学生の睡眠時間のめやす 8～9 時間]
- 朝型へ切り替えて勉強することも効果があります。
- 起きたら必ず洗顔や朝食の支度を手伝うなど、五感を刺激する動作をさせましょう。
- 夜の外出を抑えたり、21 時以降のメディア利用をやめたりすることで、落ち着いて眠りに入ることができる状況を整えてあげましょう。

朝食をしっかりとろう

朝、脳と体を目覚めさせ、代謝をアップさせるためには、朝食をとることが大切です。ご飯やパンには、脳のエネルギー源であるブドウ糖が多く含まれているので、頭もしっかり働き、勉強に集中できます。

学校で、元気に勉強したり活動したりするためにも、一日のエネルギーのもとになる朝食をしっかりとる習慣を身につけさせましょう。



朝食は 主食＋おかず をとろう

「食べる時間がない！」にならないように早起きを、そして出かける前に排便を！

家族が子どもと一緒に食卓につき、楽しい会話をしながら食事をし、元気な朝のスタートを心がけましょう。

みんなで食べればよりおいしく感じられ、食事のマナーや、好き嫌いをしないことなども、教えることができます。



テレビやゲーム、パソコンやスマートフォンの使用はルールを決めて

テレビやゲーム、パソコンやスマートフォンを使用する時間が長いほど疲れを感じる割合が高くなり、また人間らしさをつかさどる脳の「前頭前野」に、良い影響を与えないという研究結果があります。

インターネットへの接続は、有害サイトや悪意のある人とつながったり、思わぬトラブルに巻き込まれたりする危険があります。フィルタリングを設定することはもちろんのこと、目的や使い方を、家族でよく話し合いましょう。



家族でルールづくりを

たとえば・・・

- テレビを見たりゲームやパソコンをしたりするときは、時間を決める。
 - 食事のときは、テレビの電源を切る。
 - テレビやゲームは、宿題や家庭の手伝いが終わってからにする。
 - パソコンは、家族がいる場所に設置する。
 - 時間の使い方を見直す「ノーテレビデー」を設定する。
 - スマートフォンは、フィルタリングを設定する。
- ※ 19～20 ページの「中学生の生活習慣」を参考に作成しましょう。



生活習慣づくりは、各家庭の事情に合わせた取り組みが基本です。



すてきな本との出会いのために

読書をたくさんする子どもは

- 想像力や考える習慣が身につきます。
- 豊かな感性や情操、思いやりの心が育ちます。
- 言葉が豊富になります。



すばらしいことがいっぱい読書、
読書が大好きな子どもに育てるには
「すてきな本と出会うことができるような
環境づくり」が重要です。

読書習慣づくり

- 大人が本を読んでいる姿を子どもに見せましょう。
- 子どもが手に取りやすいところに本を置きましょう。
- 「親子読書タイム」（テレビを消して）を設けましょう。
- 時には、お父さんやお母さんが読み聞かせをしてあげましょう。
- 子どもと一緒に図書館に出かけましょう。
- お父さんやお母さんのお気に入りの本を紹介してあげましょう。
- 子どもと同じ本を読み、感想を話し合しましょう。
- 身近に辞書や図鑑、地図、地球儀などを置いて、知りたいことをすぐ調べられるようにしておきましょう。



低学年では

国語で昔話や絵本になっているお話を勉強します。
他の昔話や絵本、国語で勉強したお話と同じ作者や同じシリーズの本を薦めてみましょう。



▲「フレデリック」
レオ・レオニ作 好学社
「スイミー」の作者が書いたねずみの
お話です。



▲「きいろいばけつ」
もりやまみや作 あかね書房
「おとうとねずみ チロ」の作者が書い
たきつねの子シリーズです。



▲「泣いた赤おに」
浜田広介作 あすなろ書房
友の幸せを願う青おにの姿が胸をう
つ、悲しくもあたたかいひろすけ童話
の傑作です。

中学年では

国語で戦争をテーマにした物語を勉強します。同じテーマ
の本を薦めてみましょう。

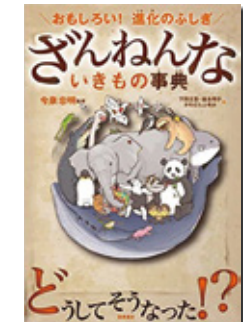
また、本の帯や「おすすめの本」カードを作る勉強もしま
すので、家でも親子で作ってきましょう。



▲「おこりじぞう」
山口勇子作 金の星社
戦争をテーマにした絵本です。
笑顔だったじぞうさんの顔が…



▲「つるばら村のパン屋さん」
茂市久美子作 講談社
「ゆうすげ村の小さな旅館」の作者が
書いたつるばら村シリーズです。作者
は岩手県出身です。



▲「ざんねんないきもの事典」
今泉忠明監修 高橋書店
進化の結果、なぜかちょっと残念な感
じになってしまった生き物たちを紹介
するお話です。

高学年では

歴史や自然など様々なジャンルの読み物を学習します。そ
れぞれの興味に応じていろいろな作品を薦めましょう。また、
田中館愛橘や九戸政実など郷土の偉人に関連する本もお薦め
です。



▲「最後のトキ」
国松俊英作 金の星社
たった1羽になったトキの保護に命を
かけた人たちのお話です。



▲「山のいのち」
立松和平作 ポプラ社
「海の命」の作者が書いた同じく「いの
ち」をテーマにしたシリーズの1作です。



▲「田中館愛橘ものがたり」
松浦明著 銀の鈴社
「日本物理学の祖」といわれ、日本の国
際化に尽くした愛橘の生涯を、ひ孫が
エピソードをまじえながら伝えます。

Q.1

4年生の男の子ですが、自立心が足りないように思われてなりません。親がいちいち言わないと十分な行動ができない状況です。自立心を育てるにはどうしたらよいのでしょうか。

A.1



人間は本来自立して生きるもので、自立心はその育ちを邪魔されない限り、身についていくといわれています。親も子どももゆとりをもって生活していく中で、自立心は着実に育っていくものです。自立心をいきなり要求するのではなく、その子なりの成長の中で自立心が育っていくのを温かく見守りましょう。

次のことは自立心育成の妨げとなると言われています。

▲些細なことまで指示をする

▲完全を求める

子どもたちを「指示を待ってその通りに行動したほうがいい」という気持ちにさせないこと。そうすれば自立心は育っていきます。

Q.2

学校から帰るなりカバンを放り出して遊びに行ってしまう。低学年の時くらい伸び伸びと育てたいのですが、これからのことを考えると勉強のことが心配になります。「宿題はいつやるの」「たまには読書を読んだら」と、ついつい口うるさく言ってしまう。このまま放っておいてよいのでしょうか。

A.2



子どもにとって遊びは、知恵や健康な体を育成したり、人との関わりを培ったりする上でとても大切なことです。ただ、社会で生きていくためには、小学校低学年から少しずつ学習習慣を確立していくこともまた大切なことです。そのためにはまず、お子さんと話し合っ、遊びと勉強のバランスの大切さを教えていくことが必要です。

低学年では、学習習慣づくりの出発点として、帰宅後の生活にリズムをつくり、その中で学習の時間を確保することを考えてみましょう。例えば、帰宅後にまず学習の時間を設定しそれから遊ぶ、または夕食の前後に30分程度の学習時間を設定するなどの方法があります。低学年の場合、できるだけ親が見守ってあげたり、頑張りをほめてあげたりすると、子どもの意欲につながります。まずは楽しく「続ける」ことに意義があります。

Q.3

多くの家庭がそうだと聞きますが、我が家では家のお手伝いをほとんどやらせていません。これからのことを考えて何かやらせたいと思っていますが、具体的にどんなことから始めたらよいのでしょうか。

A.3



家庭での子どもの手伝いとしては、例えば、食事の配膳、食器の後片づけ、食器洗い、掃除、洗濯物を取りこみたたむ、などがありますが、最近では、積極的に手伝いをさせる家庭が少なくなりました。親が求めないとともに、様々な電化製品による家事の軽減や、塾、スポーツ少年団、テレビ、ゲームなどによる子どもの生活の変化にも一因があるのではないのでしょうか。

その中で、手伝いをしている子どもは、家族のためになる仕事をしたことで、自らの存在感を感じるようです。「あなたがやってくれて助かった」という感謝の言葉は、子どもにとってうれしいものです。そのうれしさが、次の手伝いの動機づけとなります。どうしたらよいのかを実際にやって見せ、仕事のコツを教えることが大切です。そして、手伝いの仕事が上達したら、必ずほめてあげましょう。

自分で仕事をしてみれば、その苦労がわかります。感謝する心も育めます。無理なくできて、長続きしそうな仕事から挑戦させてみましょう。

Q.4

テレビの見過ぎや、ゲームのし過ぎが気になります。テレビやゲームとうまく付き合いながら、学習や親子のコミュニケーションの時間をつくっていききたいのですが、なかなか思い通りにいきません。どうしたらよいのでしょうか。

A.4

テレビやゲームの悩みは、ここ数十年にわたって親の抱える大きな悩みの一つになっています。中学生になると、これにスマートフォンも加わってきました。今の時代、避けて通れない問題なのかもしれません。

このことで一番の問題は、テレビやゲームに夢中になりすぎて、家族とのふれあいや友だちとの遊び、家庭学習や本を読むことなど、すべきことをしない状況が生じていることです。また、最近では、長時間テレビやゲームに接すると、人間らしさをつかさどる脳の「前頭前野」の発達に阻害されると言われています。その他、電磁波の影響なども指摘されています。

子どものテレビやゲーム、スマートフォン使用の時間が、節度を逸していると感じているのなら、次のことを試してみてください。

☆親子で話し合っ時間（ルール）を決めること

※文句を言ったり、怒ったりしただけでは解決しません。

☆ルールを決めたら守らせること

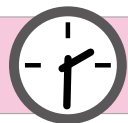
※ルールを破ったら、使用禁止など強い態度を示すことも必要です。

☆まずは大人が手本を示すこと

※食事中にスマートフォンを操作したり、家族団らんの時間にスマートフォンを見たりしていませんか？

これからの時代を生きる子どもたちに、ゲームやスマートフォンと「上手に付き合う力」をつけてあげましょう。





「進路目標をもち、計画的に学習する力」をつけよう

この頃の育ちは

思春期に入り、心と体の成長が著しくなります。また、友人の影響を受けやすく、他人から見た自分を過度に意識することがあります。不安や悩みをもちやすくなりますので、家庭ではより会話を大切に子ども様子を見守りましょう。

また、義務教育を終え、進路選択を行う大きな節目を迎えます。目標をもって学習に打ち込み、進路実現ができるように家庭で話し合う機会を多くもちましょう。



こんな学習をしています

国語

- 日常生活や社会生活にかかわる、話す・聞く・話し合う・伝え合う能力や、構成を考えて的確にわかりやすく書く能力、また読書を通してものの見方や考え方、生活に役立てようとする能力を育てます。
- そのために… 説明文、日本や外国の文学、詩歌、古典、随筆、文法などを学習します。

社会

- 我が国の国土や世界の諸地域の人々のくらしや産業、地理的な特色を理解します。また、歴史の大きな流れ、伝統や文化その時代の特色を理解するとともに諸外国との歴史的なかわりを通して我が国に対する愛情や国際理解・国際協調の精神を養います。
- そのために… 日本の地理的特徴や産業・貿易、地図の見方、世界の国々、日本の歴史・文化・政治・経済、世界の国々とのかわり、国際社会などを学習します。

数学

- 数量や図形などに関して、数学的活動を通して計算やその説明がきちんとできるなどの基礎的な理解を深めたり、事象を数学的（論理的）に考えたりして、表現・活用できる能力を育てます。また、数学のよさを感じとり、生活や学習に活かそうとする態度を養います。
- そのために… 正負の数を含んだ四則の計算、文字式、方程式、比例・反比例、関数、平面図形・空間図形やデータの活用などを学習します。

理科

- 自然の事物・現象について、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育てます。
- そのために… 身のまわりの現象（光・音・力など）、物質の姿や性質、電流、化学変化と原子・分子、植物と動物の世界、大地のつくり、生物の体のつくり、気象とその変化、宇宙、自然と人間などを学習します。

英語

- 英語は多くの国で共通語として使われており、これからの国際社会で生きていく子どもたちにとって、相手と意思疎通を図ったりその国の文化を理解したりする手段の一つとして、大切な「道具」となります。その「道具」を使いこなせるようになることが英語学習の大きな目標です。
- そのために… 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能をバランスよく学習し、基礎力を高めることでコミュニケーション能力の基礎を養い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てます。
- 具体的にはスキット（対話）やプレゼンテーション（発表）などの活動を通した「話すこと」「聞くこと」、物語や対話文、説明文を読み取ったりその感想を書いたりする活動を通した「読むこと」「書くこと」などの学習をします。

家庭で学習するときは

- 毎日、ほぼ「決まった時間」に、「決まった場所」で、「ある程度まとまった時間（できれば大体同じ長さ）」、学習をするように心がけましょう。
- 学習用具は決まった場所にまとめて置いておく、「整理整頓」を心がけましょう。
- 中学校の学習は基本「復習」中心に進めましょう。特に苦手な教科は、「その日の授業をその日のうちに」復習することが大切です。得意な（好きな、興味関心のある）教科は予習をすると更に力がつきます。
- 中学生になると部活動が始まり、帰宅時間も遅くなります。また、慣れるまでは体力的にも夜遅く勉強するのは難しくなると考えられます。何時までに学習を終えるかなど、学習目標や計画を立てて学習にとりかかるとともに、時間の見通しを立てることで、学習に対する集中力もついてきます。
- 将来の職業や志望校など、進路について家族で話し合う機会をもつようにしましょう。保護者は子どもの応援団となり、子どもの夢や希望に耳を傾け、励まし、その実現に向けて一緒に頑張る姿勢をもちたいものです。



こんな学習方法で取り組むよう指導しましょう

中学校 1・2 年生

国語

- 教科書を繰り返し音読しましょう。声に出して読むことはとても効果的な学習方法です。
- 新しい漢字や読めない漢字、意味のわからない語句は辞書を使って調べましょう。
- 授業で使ったプリントやノートを整理し、授業を振り返りましょう。
- その日に学習した漢字、語句などを確認し、繰り返し書いて覚えましょう。

社会

- 教科書をよく読み、疑問点やわからない語句を確認しましょう。
- 重要語句や地図上の位置などをチェックしたり、ノートに書いたりして覚えましょう。
- 授業で使ったプリントやノートを整理し、授業を振り返りましょう。

数学

- 教科書の例題や練習問題などを自分でやってみて、できないところやわからないところを確認しましょう。(できないからとすぐにあきらめたりせずに、じっくり考えてみるのが大切です)
- 授業で使ったプリントやノートを整理し、授業を振り返りましょう。
- 授業で学習した問題をもう一度解いてみましょう。(一人で解ければ良かった証拠)
- 間違えた問題を繰り返しできるまで練習しましょう。

理科

- 授業で使ったプリントやノートを整理し、授業を振り返りましょう。
- 学校で学習したことに工夫(図、絵など)を加えてノートにまとめましょう。
- 観察・実験の器具や薬品名、注意することをしっかり覚えましょう。
- 学習した内容の問題をワークなどで解きましょう。間違えた問題を繰り返し練習し、覚えましょう。

英語

- 教科書の音読を大切にしましょう。その際、分からない単語は確認しましょう。
- 新しい単語や表現の意味は、先生の指示通りにきちんと調べてノートにまとめましょう。
- 授業で使ったプリントやノートを整理して、その日の授業を振り返りましょう。
- その日に学習した単語や例文などを音読し、ノートに覚えるまで繰り返し練習しましょう。

中学校 3 年生

普段の家庭学習

- その日の授業のポイントを教科書やノートを見て、家庭学習ノートにまとめましょう。
- わからなかったところや間違えたところをしっかりと復習しましょう。
- 国語の漢字、英単語や文型、数学の公式・基礎計算は、繰り返し書いて覚えましょう。
- 社会の重要な語句や理科の用語を家庭学習ノートにまとめ、書いて覚えましょう。

夏休みまでの家庭学習

夏休みまでは、1・2年生の総復習を通して不得意なところを克服し、各教科の基礎を固めましょう。

国語

文法のまとめ、詩歌の表現技法、古典の言葉を、繰り返し書いて覚えましょう。長文読解力をつけるため、同じ文章を繰り返し読みましょう。

社会

教科書をよく読んで内容をノートにまとめましょう。基本問題練習に繰り返し取り組みましょう。

数学

基本的な内容をノートにまとめ、例題を自分でやってみましょう。基本問題練習に繰り返し取り組みましょう。

理科

教科書をよく読んでオリジナルの分かりやすいノートにまとめ直しましょう。基本問題練習に繰り返し取り組みましょう。

英語

3年間で学習した単語を少しずつ復習して、「①意味が分かる」「②正確に書ける」という2段階で完璧に覚えるように家庭学習などで取り組みましょう。教科書の本文や例文の音読を大切にしましょう。文法の練習問題に繰り返し取り組みましょう。

冬休みまでの家庭学習

2学期から冬休みまでの学習は、練習問題を中心に学習を進め、応用力、実践力をつけていきましょう。不得意分野では基礎問題に取り組みましょう。

国語

練習問題に取り組みましょう。特に長文読解の練習に取り組みましょう。

社会

基礎内容を固めて、練習問題に取り組みましょう。記述問題にも取り組みましょう。

数学

自分のレベルに合った練習問題に取り組みましょう。一度間違えた問題はしばらくしてからもう一度やってみましょう。学習した内容と日常生活とのつながりを調べてみましょう。

理科

基礎問題練習に取り組み、各分野の基礎を固めましょう。記述問題や応用問題にも取り組みましょう。

英語

長文読解の問題(総合問題)を解くために、3年間で学習した単語や連語の総復習をしましょう。また文法問題の復習にも取り組みましょう。この時期の音読は忘れられがちですが基礎力が落ちないようにするためには実はとても大切な学習方法です。



学力の向上と、生涯を通じて健康な生活を送る基礎を培うために
子ども自身が生活習慣を確立できるよう支えよう

中学生になると学習の難易度が高くなる上、部活動や友人関係など行動範囲が広がることから、生活リズムを見直し、時間を有効に使うことが大切になります。

また、心身の成長も著しいため、食事や睡眠など望ましい生活習慣に心がけ、子ども自身が健康管理できるように導きましょう。

☆生活・健康に関すること

家庭での早寝・早起きのルールをつくり、規則正しい生活リズムを身につけさせましょう。

テレビやゲームは、家庭で視聴時間などのルールをつくりましょう。子どもたち自身がルールを決めることで、自主的に守る意識が生まれます。

あいさつや礼儀作法などを通して、社会生活上のルールやモラルの意義について考えさせ、社会の一員としての自覚をもたせましょう。

家族の一員として積極的に手伝いに取り組みせましょう。家庭での役割を果たすことの大切さに気づかせることで、家族への感謝の気持ちも生まれます。

子どもたちへの関わり方

この時期の子どもたちは自我が目覚めるとともに、独立や自立の欲求が高まる時期でもあります。普段から親子で話をする機会をもち、子どもたちが今、どんなことを考えているのか、じっくりと耳を傾けてあげてください。

異性への関心の高まりや性衝動など、異性に対する心理的な変化が生じる時期です。子どもたちの変化を見逃さないよう、子どもたちと向き合っていくことが大切です。

タバコや酒、大人向けの雑誌などは、子どもの手の届く場所に置かないようにしましょう。

身体的・精神的に変化の激しい時期であることを考え、ストレスへの対処や自己管理について、親子で話し合ってください。

学校生活、部活動などで忙しい時期です。家での時間の使い方を話し合い、家庭学習や睡眠の時間の確保など、上手な時間の使い方を考えさせましょう。

☆食に関すること

子どもたちへの関わり方

健康の保持増進には、栄養バランスのとれた食事とともに、適度な運動、休養、睡眠が大切です。この時期の子どもたちは、心身の成長が著しい時期になります。家族一緒に食事を大切に、自分たちの食に関心をもたせていきましょう。

規則正しく栄養バランスのとれた食事は、心身の成長の基本となります。特に朝食は、一日の身体リズムを整えます。

食品の品質の良否を見分け、その栄養素や働きを考え、適切に選択できるようにすることが必要です。

食事を大事にし、自然の恵みや食物の生産などにかかわる人々への感謝の気持ちをもたせましょう。

箸の使い方、食器の並べ方、食卓での話題の選び方など、食事のマナーを身につけさせましょう。

自分たちの住む地域の郷土食や季節行事にちなんだ伝統料理など、多様な食文化があることを伝えましょう。

☆情報に関すること

子どもたちへの関わり方

これからの時代は、スマートフォンなどの機器を上手に活用する能力が求められます。そのためには、子どもの能力・発達に見合ったネットの使い方を家庭でも考えていく必要があります。ぜひ子どもたちと話し合ってみてください。

インターネットやスマートフォンなどの利用については、利用料金、利用時間など各家庭でルールをつくりましょう。

インターネットを利用する場合は、フィルタリングサービスを利用したり、アクセス制限を設定したりするなど、トラブルを回避する工夫をしましょう。

住所を載せたり、写真を含む個人情報を載せたりすると、悪用されてトラブルに発展することもあります。個人情報は載せないことが大切です。

掲示板、ブログなどへの誹謗・中傷や、許可なく写真を転送することなどは、名誉毀損や侮辱罪で訴えられることもあります。

SNSなどで出会った人とのトラブルが増えています。簡単に相手を信用したり、直接会ったりしないよう細心の注意を払いましょう。



いろんなジャンルの本を読んでみよう

読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、想像力を豊かなものにしていく上で重要です。しかし、中学生の段階では、「本を読むことが好き」「あまり好きではない」どちらもいて当然でしょう。保護者の方の中にも、中学生の頃はあまり読書に親しまなかったけれども、人生経験を積み社会への視野の広がりとともに、多くの情報の獲得を通して読書習慣を身につけたという方がいるのではないのでしょうか。

自分が先生や家族から本を紹介され、その本を読んでみたいと手にしたときのことを思い起こしてみてください。きっとその本は、読んだ人が心底面白^{しんそこ}いと思ったり、心動かされたりして薦^{すす}めてくれたものではなかったでしょうか。

「読書は貴^{とうと}いものだから」「学力を高めるから」というよりも、「この本面白いから読んでみて」と読書の世界にいざないたいものです。

読書環境をつくりましょう

①まず1日20分テレビを消して、保護者も「何か読む時間」をつくりましょう。

1週間のうち1日でもよいと思います。テレビを消して、「何かを読む時間」、「活字に親しむ時間」をつくってみましょう。例えば新聞を読むこと、これなら無理なくできるのではないのでしょうか。

②保護者が本や新聞を読む姿をみせましょう。

仕事や趣味の本でもいいので、保護者自ら読書する姿を見せていくことも重要です。興味をひかれた新聞記事を家族で話題にするのも、活字に親しむきっかけづくりとなります。

③自分で読んで感動した本、面白いと思った本のことを話しましょう。

保護者が本当に面白いと思った本や、感動したところを話してみることで、是非読^すんでほしいものなら「この本面白いから読んでみて」と薦^{すす}めてみてください。図書館や書店で多くの本と向かい合ったとき、子どもの選書の材料となるはずです。

④図書館に出向いてみましょう。

休日などを利用して図書館に出向いてみましょう。話題の本や、郷土に関する本、季節ごとに紹介している本などがあり、読書意欲が喚起されます。



読むジャンルを広げていけるように導きましょう

子どもの読書傾向は？

「読書習慣は身につけている」「本はよく読む」というお子さんの読書傾向はどうでしょうか。好きなものを読む、楽しみながらわくわくしながら読むことは大切ですが、あるジャンルに偏る傾向もあると思います。もし、恋愛小説やテレビドラマの原作本に夢中になっているのなら、時々他のジャンルの魅力を保護者から伝え、広げていくように導きたいものです。

ヤングアダルト向けの本にも良書がたくさんあります

図書館や出版業界は、小学校高学年から中・高校生を「ヤングアダルト」と分類しています。ヤングアダルト向けに書かれた作品の中にも、良書がたくさんあります。保護者の方も読んでみてください。思春期特有のもの^{もの}の見方や考え方、悩みなどを知ることで、わが子への理解を深める一助となるかもしれません。

学校で「朝読」（あさどく）

家庭で「家読」（うちどく）

学校での朝の読書を「朝読（あさどく）」といい、全国的にも広がっています。読書が心の栄養素として豊かな人間性を育むことに加え、学力にも良い影響を与えているようです。

一方で、大人が本を読む習慣は減っています。家庭で意識的に読書をする^{こと}ことで、会話を増やしコミュニケーションを深めることができたなら……。そんな願いが込められた活動が「家読（うちどく）」です。

例えば、

- ①家族で同じ本を読む
- ②読んだ本について話す
- ③感想ノートをつくる
- ④自分のペースで読む
- ⑤家庭文庫をつくる



など、家族で約束ごとを決め、取り組んでみましょう。

平日は、学習や部活動で忙しく、読書の時間を確保することが難しいかもしれません。土日や長期休業などを活用して、できることから始めましょう。

「二戸地区子どもの読書活動推進情報誌」から一部抜粋

こんなとき
どうしたら
いいの？

Q & A

～中学生編～

Q.1

子どもが、学校や自分の話をしなくなってきました。どのように子どもに接したらよいのでしょうか。

一般的に小学校高学年から中学校・高校にかけて、子どもは徐々に親と話をすることが少なくなってきます。今までの「守ってあげる子ども」という存在から、「人格を持ち、自立しつつある個人」へと、親自身も子どもの見方を変えていかなければならない時期です。

この時期は思春期の始まりで、子どもの心身も大きく変化する時期になります。このような時期は誰にでもあることですから、むやみに動揺する必要はありません。子どもの立場に立って共感したり、考えようとしたりする姿勢が大切です。子どもが今、何に興味があるのかに関心を持ち、子どもと話をする機会を積極的につくっていきましょう。自立しようとする子どもを認め、子どもの力を信じながら、その成長を見守っていきましょう。



Q.2

子どもが、学習に対してさっぱり「やる気」を出しません。どのようにしたら、「やる気」を出させることができるのでしょうか？

なかなか「やる気」の見えない子どもに対し、心配されるお家の方の気持ちはよく分かります。逆に、今、まさに勉強しようとしていたところに、「宿題はやったの？」「勉強しなさい！」と言われ、「やる気」が起きないという子どもの気持ちも理解できます。勉強は自分のためにしているわけですが、「やりなさい」と言われることで親のためにしてやっているという錯覚に陥ってしまったり、勉強そのものを放棄してしまったりすることもあります。特に中学生になるとやらされることは嫌がります。

やる気が出てこない原因は何か、子どもの声に耳を傾け、一緒に考えてみましょう。親の経験を話してみたり、必要に応じて情報を与えたりしながら、子ども自身に考えさせていきましょう。親は子どもをよく観察し、見守りながら、気長に待つことやほめて励ますことも大切です。



Q.3

子どもが部活動に悩み、勉強も手につかない状況で心配です。親としてどのように話をすればよいのでしょうか？

子どもは悩んでいることに対して、自分の気持ちを整理しようとしてできずに迷い悩んでいるのだと思います。子どもにとっては試練ですが、子どもが大人になっていくための場を与えられていると考え、子どものペースとやり方で解決させるように見守ってあげてください。

親の方から子どもに部活動について話を聞く際は、子どもの目線で耳を傾け、問い詰めたり叱ったりせずに受け止めるようにしましょう。親が経験してきたことをアドバイスすることもよいでしょう。

大切なことは、子どもに結論を任せるということです。必要があれば子どもの了解を得て、部活動顧問や担任の先生に相談してみるとよいでしょう。



A.3

Q.4

子どもに「高校は、自分の行きたいところに行く。」と言われました。親の願いも伝えたいのですが、どのように話をしたらよいのでしょうか。

将来仕事に就き、自分自身で収入を得て生活を維持していくためには、知識や技術を習得することが大切です。また、変化が激しいこの時代は、新しい知識や技術・考え方を身につけていく必要があります。

高校進学については、本人の意志を大切にしながら、普段から進路情報をもとに親子で話し合いをする機会をもっておくことが大切です。その際、親の考えや家庭状況について、しっかりと話をすることが必要ですが、結論は本人に出させるようにします。自分の進路選択に対して、責任をもたせることもこれからは大切なことです。



A.4

Q.5

問題が起きたときに、なかなかはっきりと注意することができません。どのように対処していったらよいのでしょうか。

この時期の子どもたちは、親と話をすることを億劫^{おっくう}がったり、聞かれたことに対しても一言・二言しか返さなかったりすることが多くなってきます。大人として扱ってほしい反面、自分のことを見てもらいたい、分かってもらいたいという面もあります。子どもたちが思っている以上に、心はまだまだ幼いところもあります。

子どもが間違いをおかしたときは、ダメなものはダメと毅然とした態度で話しましょう。親としての思いや覚悟を子どもにしっかり伝えることが大切です。その上で、子どもに対し、なぜそのような行動をとったのか、どういう思いでやったのか、子どもの声にじっくりと耳を傾けることも必要です。子どもたちの心と正面から向き合い、お互いの思いを伝え、話し合っていくことが大切です。



A.5



乳幼児向け

書名	著者名	出版社
いいおかお	松谷みよ子	童心社
くだもの	平山和子	福音館書店
あおくんときいろちゃん	レオ・レオニ	至光社
ちびゴリラのちびちび	ルース・ボーンスタイン	ほるぷ出版
もりのなか	マリー・ホール・エッツ	福音館書店
はらぺこあおむし	エリック・カール	偕成社
わたしのワンピース	西巻茅子	こぐま社
ラチとらいおん	マレーク・ベロニカ	福音館書店
かいじゅうたちのいるところ	モーリス・センダック	富山房
おやすみ〜	いしすちひろ	くもん出版

小学校低学年向け

書名	著者名	出版社
おばけのてんぷら	せなけいこ	ポプラ社
おおはくちょうのそら	手島圭三郎	リブリオ出版
みえるとかみえないとか	ヨシタケシンスケ	アリス館
きいろいばけつ	もりやまみやこ	あかね書房
ふたりはともだち	アーノルド・ローベル	文化出版局
としょかんライオン	ミシェル・ヌードセン	岩崎書店
だるまちゃんとだいこくちゃん	かこさとし	福音館書店
とんとんとん	あきやまただし	金の星社
ふたりはいつもともだち	茂市久美子	金の星社
しゅくだい	宗正美子	岩崎書店

小学校中学年向け

書名	著者名	出版社
エルマーのぼうけん	ルース・スタイルス・ガネット	福音館書店
霧のむこうのふしぎな町	柏葉幸子	講談社
長くつ下のピッピ	アストリッド・リンドグレーン	岩波書店
西遊記	斉藤洋（原作：呉承恩）	理論社
大どろぼうホッツェンプロッツ	オトフリート・プロイスラー	偕成社
ロウソクの科学	ファラデー	角川つばさ文庫
モチモチの木	斎藤隆介	岩崎書店
おかあさんがおかあさんになった日	長野ヒデ子	童心社
ごみを拾う犬もも子	中野英明	ハート出版
だれも知らない小さな国	佐藤さとる	講談社



小学校高学年向け

書名	著者名	出版社
精霊の守り人	上橋菜穂子	偕成社
大草原の小さな家	ローラ・インガルス・ワイルダー	福音館書店
飛ぶ教室	エーリヒ・ケストナー	岩波書店
ふしぎ駄菓子屋 銭天堂	廣嶋玲子	偕成社
岬のマヨイガ	柏葉幸子	講談社
風の又三郎	宮沢賢治	講談社
青空のむこう	アレックス・シアラー	求龍堂
木かげの家の小人たち	いぬいとみこ	福音館書店
ナルニア国ものがたり	C・S・ルイス	岩波書店
ホビットの冒険	J・R・R・トールキン	岩波書店

中学生・高校生向け

書名	著者名	出版社
ゲド戦記	ル・グウィン	岩波書店
はてしない物語	ミヒャエル・エンデ	岩波書店
漫画君たちはどう生きるか	吉野源三郎	マガジンハウス
アンジュール ある犬の物語	ガブリエル・バンサン	B L 出版
西の魔女が死んだ	梨木香歩	新潮社
かがみの孤城	辻村深月	ポプラ社
時の旅人	アリスン・アトリー	評論社
夜のピクニック	恩田陸	新潮社
一瞬の風になれ	佐藤多佳子	講談社
ワンダー	R・J・パラシオ	ほるぷ出版



あ と が き

この手引きでは、学力を伸ばすために、一般的な子どもの発達段階に応じて、学習・生活・読書など、家庭での学習環境づくりをどのように行ったらよいのかを提示しました。

各家庭で、子どもの現状に対して、今すぐやらなければならないことがそれぞれあると思います。この手引きは、日々の子育てを振り返るきっかけとなり、これからの成長を見通しながら、現実の状況に対処する一助となるよう作成しました。

「そうか、この時期には、こんな学習をしているのか」

「家庭で学習する時は、こんな学習方法をさせればよいのか」

「学習習慣定着のためには、こんな生活習慣が必要なのか」

「読書習慣をつけるためには、この時期にこんな環境づくりが必要なのか」

など、子どもの発達に応じて保護者がどうかかわり、支えたらよいのか、保護者の果たすべき役割を考える手引きとして、家庭でご活用くださることを願っています。

最後に皆さんへのメッセージとして、市内のある親からの手紙を裏表紙に掲載いたしました。家庭教育の真髄である「親と子のふれあい」を垣間見ることができます。親は誰でもこのような気持ちで子育てをしていることと思いますが、昼夜の忙しさに手をかけられないでいる方も多いと思います。

これを読んで己を見つめ直し何かを感じとっていただければ幸いです。

発行日／平成21年11月 初版
改訂版発行日／平成23年 9月 二版
平成27年 7月 二版 第二刷
令和 2年12月 三版
発 行／二戸市教育振興運動推進協議会
事務局／二戸市教育委員会生涯学習課
岩手県二戸市福岡宇川又47番地
TEL 0195-23-3111

教 育 相 談

子どもは様々な悩みや問題を乗り越えながら生きる力をつけていくものですが、時に精神のバランスを欠くほど思い悩み、心身の不調をきたすこともあります。「仲間に入れない」「学校に行きたくない」「勉強についていけない」など、子どもの悩みに保護者としてどう対処し、支えたらよいのか、家庭だけで抱え込まず、下記へご相談ください。

●すこやかダイヤル（岩手県立生涯学習推進センター）

TEL 0198-27-2134

●ふれあい電話（県北教育事務所）

TEL 0194-53-4991

●二戸市教育委員会教育企画課

TEL 0195-23-3111

●子育てメール相談（岩手県立生涯学習推進センター）

Kosodatem @ pref.iwate.jp



親の手紙より



お母さんはすぐおこります。どうしてかわかりますか？
あなたが大人になって、お父さんやお母さんの手をはなれ、
生活するときにこまらないように教えるためと、
お父さんもお母さんもあなたが大好きだからです。

あなたは、悪いことをしたとき泣きますね。
お母さんも本当は心の中であなたよりも泣いているのです。

どうしてお母さんも泣くのか？…
それは、教えてきたことを分かってくれなくてかなしいということと、
お母さんの教え方が悪かったのかなあとはんせいしたり、
くやしかったりするから。

それでもあなたのことをきらいと思ったことは一度もありません。

お母さんのおなかの中にいるときから
ずっと大切に大切に育ててきて、
だれも代わりのいない、かけがえのないあなただからです。
それはいつまでも、どんなときも変わりません。

これからもお母さんはおこりつづけます。
それでも、あなたがこまっているとき、かなしいとき、なやんでいるとき、
さびしいとき、ずっとそばにいてかならずたすけるからね。

いつまでもあなたのお父さんとお母さんだから。
…だからあなたも安心してたくさん勉強して練習して、
お父さんとお母さんが安心できる大人になってください。

